

福岡市の  
コロナ対策

# 医療・介護施設などの PCR無料検査が

# 実現!



福岡市では昨年12月に、医療・介護・障害者施設従事者の3回までのPCR検査(社会的検査)無料化、感染拡大地域での希望する住民の

検査(面的検査)実施など、コロナ対策が前進しました。

これらはこれまで議会や申入れで日本共産党が要求し、当初は市長が拒否してきたものですが、市民の声の高まりや日本共産党の論戦によって切り開いてきたものです。これは全国的にも先進的な成果です。

市民、医療・福祉関係者の声をもとに  
共産党の論戦が切り開く

## 医療機関に 経営支援を

共産立案 意見書  
採択!

日本共産党は市議会で何度も医療機関の切実な実態を取り上げ、減収補填を国に求めるよう提案。あわせて、市独自で支援するよう市長に迫りました。

また、6月議会で日本共産党は、国に対し医療機関へのさらなる経営支援を求める意見書を立案。他の会派からの意見で修正した上で、自民・公明・市民クラ

ブの議員などが共同提案者となり、全会一致で採択されました。

### 日本共産党 福岡市議団



中山郁美  
団長・早良区

中山郁美



倉元達朗  
幹事長・城南区

倉元達朗



綿貫英彦  
東区

綿貫英彦



堀内徹夫  
南区

堀内徹夫



松尾りつ子  
中央区

松尾りつ子



山口湧人  
西区

山口湧人

# 福岡医療団のみなさんと何度も懇談し 現場の声を届けてきました



医療団の皆さんからお話を伺う日本共産党市議団 (昨年4月)

## 日本共産党 福岡市議団

日本共産党福岡市議団は、新型コロナウイルス感染症の拡大以来、医療・介護の現場の声を直接聞き取り、市政に届けてきました。特に、福岡医療団の皆さんとは何度も懇談を行い、現場の実態を質問に生かしてきました。

その結果、オモテ面のような形で市政を動かすことができました。

## 国会議員・県議と連携

# 十分な病床・宿泊施設 の確保など要請

日本共産党市議団はコロナ対策について県議団、国会議員団とも連携し、医療現場の声を政治に届けてきました。

県議団は、検査の充実、医療機関への減収補填などを議会質問で要求してきました。



要望書を手渡す日本共産党県議団 (2月2日)

2月2日には、早急に県が目標とする760の病床と十分な宿泊施設(ホテルなど)の確保などを県知事に申し入れました。

# 無症状感染者を把握・保護 する積極的検査戦略を

日本共産党は国会の代表質問で、PCR等検査を抜本的な拡充を提案。1日2000検体を処理できる完全自動のPCR検査機器を搭載したコンテナトレーラーが開発されていることも紹介し、「なぜやらないのか」と厳しく指摘。無症状者を含めた感染者を把握・保護することによって、新規感染者を減らすことを首相に迫りました。



首相を追及する日本共産党国会議員団 (1月)